



祐介の目

No.135

大田祐介 (福山市議会議員)

日本一長寿な車であり、かつては電気屋やガソリンスタンドで商用車として大活躍した。またスポーツタイプのサニーGX5との部品互換性も高く、少しの改造で見違えるように速くなる。

旧車ブーム

昭和年代のスポーツカーの値上がりが著しい。例えばトヨタのAE86型など2〜300万円する。日産のL型のフェアレディZなど1千万円を超える。マンガの影響や、若い頃に乗リたかったシニア世代の需要など諸説ある。古い車を大切にすること自体悪くないが、中古車業界でも異常な価格高騰と言われている。

じつは私も1993年式のサニートラック最終型に乗っている。トラックとはいえ、2シーターでFR、日産の名機A型エンジン(1200CC)は非力ながらも軽い車体ゆえに軽快な走りで、羊の皮を被ったスポーツカーだと自画自賛していた。元々は農作業用として12年前に購入し、ぶどうの肥料や資材の運搬に使っていた。しかし、このサニートラさえも昭和のレトロな雰囲気ゆえか値上がりしている。

サニートラは1971年から37年間も同じ型で生産された

私のサニートラは錆がひどく4年前に三吉鍍金にてフェアレディ432Zと同じオレンジに全塗装してもらったところ、注目度抜群となり、多くの方から「懐かしい」「昔乗っていた」と声をかけられる。

さて旧車は当然故障しやすい。私は「NHKプロフェッショナル仕事の流儀」にも出演した小山自動車にお世話になっている。かつてA型でレースにも参戦していた小山さんにより、サニーGXヘツド+ソレックスキャブレターというライトチューンで本物のスポーツカーに変身した。足回りも懐かしのマグホイールとモンローショックを組み合わせ、希少なニスモLSDや5速ミッションにより走る楽しさは倍増している。

結局、旧車の魅力は自分好みの車に仕上げる喜びにあると思う。現代の車は優等生で故障もなく何か部品交換をする必要も無いが、旧車には様々な課題を解決して維持する楽しみと苦勞がある。